

平凡な眞理

東京女高師教授 下 田 次 郎

子のない時に教育の本を讀むと、たゞ理屈として、「さうだ、それに違ひあるまい」と思ふ位の事であるが、いよ／＼子を持って實際に教育してみる事になると初めて本に書いてある事が「なるほど、さうだ」と適切に感ずる事が少なくなる。

例へば教育は小さい時に良い習慣をつけて置かないといけないと本にもあるが、全く其の通りで丁度木の枝ぶりでも善く作らふと思へば未だ枝が若くしな／＼してゐる時に、はりがねか何かで巻き附けて形を作っておかないといけない、もう枝が硬くなつてからやつたのでは、はりがねをのけると元にもどつたりする。丁度その様なもので子供に良い習慣を養はふと思へば小さい時にやらなければいけない、道徳にしても、つまりは善い習慣を養ふにある。子供に教訓をするとか或は健全な服従を養ふとかいふのも小さい時にしなければならぬ。どうも中學校の三四年頃になると、もう親の自由にもならぬので、

なか／＼子供に教訓をしても、むかふにも考があるから服従しない事がある、それで十五六歳にもなつて「どうも教育をやりそこなつた、これから一つうまくやらう」と思つても、も早や手遅れでまづはいけないものと思ふ。世の中にはずるぶん不良少年不良少女があつて新聞などにも出て居り家庭の親も困てゐるのが少なくない様であるが、之はつまり幼い時の教育を誤たか、教育に注意しなかつたかであつて、實をいふと之から仕直すといふのは手をくれば方で、もう十四五歳になつて云たのでは幼い時のように必ずしもすなほに受取るものではない。それで教育といふものは手遅れにならない様の中によくやつて置かなければいけないものだといふ事をつく／＼感じるものである、つまり中學校高等女學校の三四年位迄の中に基本的性質を作つて置く事が必要で、あとは其の部分的の小繕ひか、つぎたし位なものである。それから家庭が非常によくしまつて居

るような家から案外不良性の少年少女を出す事がある、之は家庭があまり嚴格であること子供が苦しがつて家庭の窮屈な處を外に出たのばさうとするものだから上のつむりとは反對の道樂息子になつたり金を摺み出して遊んだりする様な者が出来る事がある。人間は、室のねずみを追ひ廻すように何處までも追究するものではない、多少ばかりした隠れ處がないといけない。親が子供を躰けるにも、このねづみ取り主義ではいけない、さうでないこと子供が苦しがつて却て親を噛む様な事になる。さうかと云てあまり親が愛におぼれて子に甘いことやはりノラクラの子女が出来ることから緩嚴その宜しきを得るといふ事が大切である。それも幼い時の事であつて、前にも云た様に十四五歳になつて、是迄のやり方がまちがつとつたと氣が附いたのでは、も早や手遅れ同様であるから、小さい時に善い性質、習慣を養て置かねばならぬ、尤も手遅れだと云てまるで駄目だといふのではないが案外効果が少ないものである、根氣を持ってやつて居れば又善くする事も出事るか知らんがそれはなかくむづかしい事である。

つまり教育は幼い時が最も大切で又最も有効であ

るといふ事は平凡ではあるが實際子供を扱て見て、教育の書物が教へてゐる事は全くその通りであるといふ事を實際に感ずるからその事を此處に又繰り返していふのである。(文責在記者)

みい子の日記から

お向ひのお店の人達は毎日「櫻やカーチンションや、たくさんきれいなお花をさかしてゐる。」

今朝お家の庭に、い、香ひの薔薇が咲いた。「これは誰が咲かしたの」とおばちゃんに聞いたら「神様よ」といはれた。

やつぱしピンセット持て、前かけかけてお向ひの姉さん達のようにして咲かせたのかしら見てゐればよかつた。